

(5) 障害のある子どもや外国人の子どもなどの読書活動の推進

子どもと保護者への取組みの充実

NO.	事業名	取組みの内容	区分	状況	指標	平成24年度(2012年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
94	読書活動	保育や教育の場で子どもの状況に応じて、日常的に絵本の読み聞かせや子どもと本をつなぐ取組みを行う。	継続	○		<p>教育の場で児童生徒の状況に応じて、日常的に絵本の読み聞かせや児童生徒と本をつなぐ取組みを行っている。(刀根山支援学校)</p> <p>保育室や待合室に子どもが自由に手に取ることができるように絵本棚を設置。好きなときに取り出して見ている。友だちが見ていると興味を持って見たいという様子もあり、一緒に楽しむような場面もある。保護者の要望もあり、今年度より園の本を一部貸出して、家庭でも読んでもらえるようにしている。</p> <p>クラスで読んでもらった本からごっこ遊びへと発展することもあり、1冊の本をくり返し楽しむ姿もあった。クラスで気になるものの本を図書館の方に紹介してもらって、それがクラスのお気に入りの本になることもあった。</p> <p>外来の子どもたち対象に週1回保育をしている(どんぐりクラブ)がそのときには毎回読み聞かせを行っている。月齢の小さい子が参加することが増えてきて、初めて絵本にふれるということも多々あるが、くり返しのある定番の本を楽しむことが多い。小さくても絵本を楽しめる姿から、家でも読んでみようかなと保護者が思えるようなきっかけ作りができたと思っている。(しいの実学園)</p> <p>各教室に絵本の棚があり、休み時間には児童が自分の好きな絵本を手にとり楽しんでる。授業中、朝の会・終わりの会で絵本の読み聞かせをしている。入学当初はなかなか絵本に集中できない児童も、経験を積むことで次第に絵本の読み聞かせが好きになり、楽しめるようになる。(豊中支援学校)</p> <p>朝の設定保育の導入や給食準備中、おかえり(保育終了時間)の前など絵本を読む機会を多く持っている。絵本のおはなしが遊びへと発展するクラスもあった。子どもが絵本に興味がないと思っている保護者に子どもが興味を持ちそうな絵本を紹介してきた。引き続き保育の中に積極的に取り入れていきたい。(あゆみ学園)</p>	刀根山支援学校 しいの実学園 あゆみ学園 豊中支援学校	

障害のある子ども・外国人の子ども

NO.	事業名	取組みの内容	区分	状況	指標	平成24年度(2012年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
95	「おやこでにほんご」	地域に暮らす外国人親子が安心して参加できる親子参加型日本語教室を図書館で継続して行うことで、外国人親子の読書推進、母語継承の問題など、地域課題のひとつであるマイノリティ住民の抱える問題解決につながる事業としていく。	継続	○	回数／参加人数	110回／1,591人	毎週火曜日の10時から12時まで外国人親子のための居場所作りを、岡町、庄内、千里の3図書館で行っている。毎回数組の外国人親子が日本人ボランティアと一緒に日本の生活や子育ての情報交換をする。また、図書館で活動できるメリットから、読み聞かせなどを通して、絵本にふれる機会を作っている。日本語による読み聞かせは、日本語や日本文化を知る場になっており、母親の母語による読み聞かせはその子どもが母親の文化にふれる機会になり、他の親子にとっても異文化にふれ学ぶ場になっている。また、母親自身にも日本で活カと自信を得ることが出来る良い機会になっている。その為にも、図書館の外国語の本をもっと積極的に活かしていきたい。今後は地域で孤立している外国人親子と出会い、外部機関と連携をし、支援する他、外国人親子が安心して参加できる居場所作りを励みたい。(おかまちおやこでにほんごとよなか国際交流協会)	○おやこでにほんごとよなか国際交流協会読書振興課・図書館
96	市立図書館における多文化サービスの充実	外国人市民が図書館を利用するきっかけとなる事業や、地域の多文化共生を推進するための事業を図書館、とよなか国際交流協会、市民ボランティア等が連携して行う。	継続	○	おはなし会の回数／参加人数	1回／14人	岡町図書館では毎年豊中子ども文庫連絡会との共催事業である「子どもと本のまつり」において、ボランティアの協力を得て、多言語のおはなし会を実施しており、24年度はタイ語と中国語のおはなし会を実施した。	読書振興課・図書館市民団体(地球ママくらぶなど)とよなか国際交流協会
97	「おはなし会がやってきました！」	子ども文庫やおはなしグループに依頼し、日頃図書館を利用しにくい子どもたちに出前のおはなし会を行う。 [55をご参照ください。131にも掲載しています。]	継続	○	回数／参加人数	3施設で7回／342人	支援学校1校(小学部低学年・高学年、中学部1～3年生対象)、児童発達支援センター2か所で開催。普段から移動図書館の担当である図書館職員が、毎年同じおはなし会のグループとともに実施することで、参加する子どもたちの様子を継続して見ることができている。昨年度から図書館職員も演者として加わる機会が増え、より密接に連携して事業を行っている。今後も各施設の教職員・保育士と連携して、事業を継続していく。	読書振興課・図書館

NO.	事業名	取組みの内容	区分	状況	指標	平成24年度(2012年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
98	子ども文庫での活動	子ども文庫が地域の中で本に出会える場であるということをPRし、障害のある子どもや外国人の子どもも絵本やおはなしを楽しめる場となるよう、図書館やとよなか国際交流協会などと連携して活動する。	継続	○			4か月児健診では図書館からの配布物セットのなかに「こどもぶんこのしおり」を入れて、子ども文庫のPRを行っている。また、図書館との共催事業として毎年実施している「子どもと本のまつり」では、多言語によるおはなし会を行い、すべての子どもたちがおはなしや読書を楽しむことができるよう事業を展開している。文庫によっては、地域にある障害児のデイサービスに絵本を読みに行ったり講座の案内をするなどの活動を行っている。文庫では個々の利用者に合った、きめ細かな対応ができるように、他の団体と連携を取りながら活動している。今年度はとよなか国際交流協会と連携する事業はなかったが、必要に応じていつでも連携がとれるようにしていきたい。(豊子連)	○豊子連 読書振興課・図書館 とよなか国際交流協会
99	絵本講座の開催	絵本の講座やおはなし会の中で保護者に子どもの読書の楽しさや大切さを伝える取組みを行う。 [6、127をご参照ください。]	継続	○	回数／人数	42回 ／ 1,420人	24年度も子育て支援センターや社会福祉協議会を通じ、多くの子育てサロン・サークルから出前講座の依頼があった。おもに近隣の図書館のこども室担当者が向向き、絵本についての話や、絵本の読み聞かせなどを行い、地域の中で本と親しむ機会としている。岡町図書館では公民館と連携しての絵本講座も行った。 東豊中図書館では東豊中保育所地域子育て支援センターと共催の絵本講座「えほんでもっとふれあいましょう」を行った。	読書振興課・図書館
100	絵本講座の開催	外国人保護者に子どもの読書の楽しさや大切さを伝える取組みを行う。	継続	○	回数／人数		実施なし。(毎週の活動中には頻回実施しているが、「読み聞かせ」と題した活動のみを対象としているため)	とよなか国際交流協会 おやこでいほんご 読書振興課・図書館
101	図書館見学会の実施および保護者への図書館利用の案内	児童発達支援センターや支援学校の子どもと保護者に対して図書館見学会を行う。またその際に障害のある子どもの保護者や障害のある保護者が子どもと一緒に図書館を利用しやすいように、利用の方法など図書館のサービスについて詳しく案内し、同時に保護者の声を聞く機会を定期的につつ。	継続	○	実施回数／人数	2回/ 96名	野畑図書館にておはなし会のあとフロアを見学させてもらった。貸切ということで他の方に気兼ねなくゆっくり親子で楽しむことができた。また、布の本を手にとって見ることができたり子どもの好きな乗り物の本などもたくさんあり、喜ぶ姿が見られた。(あゆみ学園) あゆみ学園の子どもを対象に野畑図書館にて図書館見学を実施。おはなし会のあと、フロアで直接本を選んでもらい、貸出を行った。月末休館日を利用して行ったため、他の利用者に気兼ねすることなくゆっくりと見学していただけた。 また、しいの実学園の子どもを対象に高川図書館にて図書館見学を実施。おはなし会のあと、絵本コーナーで本を選んでもらい、貸出を行った。実施後のアンケートでも広々としたスペースで安心して楽しむことができたとの意見や、障害のため来館を諦めていたが一緒に行けてとてもうれしかったなどの意見があり好評だった。 東豊中図書館では東豊中保育所地域子育て支援センターと共催で実施している行事に、保護者が弱視の親子が、家庭サポーターと一緒に参加された。その際文字の大きな絵本についてご要望があり、集めて情報提供した。(図書館)	○読書振興課・図書館 児童発達支援センター(あゆみ学園、しいの実学園)

障害のある子ども・外国人の子ども

NO.	事業名	取組みの内容	区分	状況	指標	平成24年度(2012年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
102	図書館見学会	外国人の子どもや保護者、その支援に関わる協力者に対して図書館見学会を行う。	継続	○	実施回数 参加人数 /	1回/ 15人	「しょうない・おやこでにほんご」にて、図書館員との交流時に館内を見学した。(とよなか国際交流協会) 「おかまちおやこでにほんご」のスタッフや参加者とは日常的に図書の相談にのったり意見交換を行っている。今後おやこでにほんごの会場に図書館職員が参加する機会を増やしていきたい。(岡町図書館)	○読書振興課・図書館 とよなか国際交流協会 市民団体 (地球ママくらぶなど)
103	動く図書館による施設サービスの充実	動く図書館が児童発達支援センターや支援学校、保育所を巡回して、子どもや教職員が直接選んだ本を貸出する。動く図書館の巡回について、教職員や保護者の意見に対応し、各施設の読書環境の整備を支援する。	継続	○	動く施設図書館 /で貸出回数	10ヶ所/計 18,191冊	約4週間に1回、各施設を巡回して貸出を実施。子どもが直接本を選ぶとともに、教職員の保育用資料や保護者向けの資料も貸出している。巡回が定着しており、貸出冊数は数としては僅かに減少しているが、巡回施設の1つが工事のため6ヶ月間巡回できなかったことを考慮すると、1巡回あたりの貸出冊数は増加しているといえる。 個別の要望については巡回時に聞き取りを行っている。前年度はこの他に通園施設2ヶ所で別途聞き取り調査を実施したが、今年度は実施できなかった。来年度の課題としたい。	読書振興課・図書館
104	小児科病棟でのおはなし会の実施	市立豊中病院とおはなしボランティア(おはなしたまてばこ)、市立図書館が連携し、小児科病棟でのおはなし会を行う。	継続	○	おはなし会の回数	46回	非感染ルームとプレイルーム、そして病室での読み聞かせと活動の場面が広がった。対象年齢が幅広く、人数も事前に把握できないので対応を工夫している。保育士の協力を得ている。(おはなしたまてばこ)	○おはなしたまてばこ 市立豊中病院 読書振興課・図書館
105	「図書館へようこそ」の周知	だれもが使ってみようと思う、そして使いやすい図書館をめざして、「図書館へようこそ」(バリアフリー宣言)を周知するとともに、ハード、ソフトの両面について、図書館利用の障害を無くよう取り組む。 [121にも掲載しています]	継続	○			4か月児健診や出前講座に出向いた時にも、「図書館へようこそ」の精神を伝えPRしている。4か月児健診で案内することで、視覚障害や弱視の方の図書館利用につながるケースもあった。	読書振興課・図書館

子どもの本や読書に関する情報提供

NO.	事業名	取組みの内容	区分	状況	指標	平成24年度(2012年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
106	絵本などの情報提供	図書館のウェブサイトやメールマガジン、ケーブルテレビなど多様なメディアで本の紹介などを行う。 [5、137にも掲載しています。]	継続	○			項目No.5と同じ	読書振興課・図書館
107	図書館のPR	渡日外国人児童生徒の相談窓口、とよなか国際交流協会などで、多言語の図書館利用案内を配布する。	継続	○			「とよなか子ども読書マップ」を活用して情報提供を行った。また、国際交流センターの多言語絵本を紹介した多言語チラシを作成し、周知を試みた。(とよなか国際交流協会) 市役所で転入の手続きをされる方や渡日外国人・帰国児童生徒の保護者に「とよなか子ども読書マップ」や多言語の図書館利用案内を配布し活用してもらえよう、担当部署に働きかけていった。図書館作成のパスファインダー2種類(「国際交流」と「外国人のための生活ガイド」)を人権文化部に配布した。(読書振興課・図書館)	とよなか国際交流協会 読書振興課・図書館 市民課 人権教育室

読書環境の整備

NO.	事業名	取組みの内容	区分	状況	指標	平成24年度(2012年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
108	市立図書館の外国語資料の充実	関係団体と協力し、外国人市民の意見やニーズを把握しながら、市立図書館の外国語資料を購入や寄贈によって充実するとともに、岡町図書館の「世界のこどもの本の部屋」をより利用しやすいものにする。 〔145にも掲載しています。〕	継続	○	新規受入冊数／蔵書冊数	277冊／10,846冊	24年度「世界のこどもの本の部屋」の資料として84冊新規購入した。おやこでにほんごのスタッフや、市内の小学校に外国から転入してきた子どもへの資料というニーズに応え、ハングルやタイ語の資料や、中国語やスペイン語の小学生向けの読みものを中心に選書した。23年度から図書館で取組みんでいる多文化共生支援では、24年度にインドネシア語10冊、英語183冊合わせて193冊の資料を購入した。日本で生活する外国人のニーズに応え、英語で書かれた料理の本や小説などを購入し、庄内図書館のコーナーを拡充した。	読書振興課・図書館
109	資料の充実	図書の購入や市立図書館の団体貸出、リサイクル図書や寄贈図書を利用することによって絵本などの図書資料を充実させる。 〔147、148をご参照ください。〕	継続	○			<p>動く図書館による団体貸出、リサイクル図書、寄贈図書などにより、図書の充実をはかることができる。保育や訓練に使いたい本を前もって図書館に連絡して持ってきてもらうことも増えている。(しいの実学園)</p> <p>動く図書館では、各クラスから借りた本の希望も出してもらって1週間くらい前から予約のリストをFAXしている。大型絵本などなかなか購入できない本を借りることである程度の絵本の楽しみを提供できた。「スマイル」(スマイル事業:個別療育と保護者支援の事業)でも「はじまりの会」や「おわりの会」で絵本を1対1で読むときに活用し、「これ、次も読んで-!」とリクエストする姿がみられる。またリサイクル図書を活用することで園バスやクラスに置く本も増え楽しめている。(あゆみ学園)</p> <p>図書の購入や市立図書館の団体貸出、リサイクル図書を利用して図書資料を充実させた。特に大型絵本や布絵本など、なかなか購入できない本が利用でき、児童生徒も楽しむことができた。また、本校教育部においては生徒がリクエスト図書を利用して自分の好きな作者の本を読むことができ楽しむことができた。(刀根山支援学校)</p> <p>月に一度、動く図書館が巡回することで児童生徒は絵本だけでなく、CDや紙芝居を実際に自分で見て、ふれて、選択して借りることができることや、大型絵本など、なかなか購入できない本も借りることができ、教員が授業に取り入れ活用できていることは、たいへんありがたい。その反面、借りた絵本は返却しなければならぬため、児童が気に入った絵本は教員が自費で購入している現状がある。(豊中支援学校)</p>	刀根山支援学校 しいの実学園 あゆみ学園 豊中支援学校
110	資料の充実	図書館などが児童発達支援センターや支援学校の教職員とともに、施設で活用される資料の情報交換を行い、障害のある子どもにとって有効な資料を研究し、選書に反映させる。 〔144にも掲載しています。〕	継続	○	施設数	4か所	施設や学校で活用される資料のニーズについて、巡回時に情報交換している。それを動く図書館に積み込む資料に反映することで、施設や学校の読書環境の整備につとめている。施設の職員や保護者が入れ替わる際などに、交流の場を持つことが課題。24年度はさわる絵本と点字絵本を23冊新規購入した。動く図書館の担当が聞き取った資料のニーズに沿って、利用の多い資料の買い足しや傷みのある資料の買換えも行った。(図書館) また、教育センター支援教育チームから視覚障害を有する児童生徒に対し、拡大教科書や点字教科書を支給し、学習の支援を行っている。	児童発達支援センター 支援学校 読書振興課・図書館 教育センター

障害のある子ども・外国人の子ども

NO.	事業名	取組みの内容	区分	状況	指標	平成24年度(2012年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
111	外国語資料の整備	英語以外の外国語資料について、蔵書検索や利用を促進できるように研究を行う。また市立図書館と、とよなか国際交流協会が資料の情報を共有し、分担収集をするなど、ともに蔵書の充実を進める。 [146をご参照ください。]	継続	○			他市の事例研究のため、大阪市立図書館に見学に行き、資料や検索システムについて伺った。外国語資料の受入業務を担当するメンバーでの会議を実施した。(図書館) 言語的マイノリティにおかれる外国につながる子どもたちが、乳幼児期から母語や絵本と出会うために2007年度に「多文化子ども読書推進活動」を立ち上げ、外国語絵本を整備し、外国につながる子どもたちの参加する事業(多文化子ども保育にこにこ、子ども母語、学習支援サンプレイス)で絵本を使った活動を取り入れ、保護者には貸出サービスを紹介している。地域の子育て支援イベント「みんなあつまれわくわくランド」などでも外国語絵本を展示し、PRを図った。今年度は新たにインドネシア語の絵本を購入し、データベースに追加した。(とよなか国際交流協会)	読書振興課・図書館 とよなか国際交流協会
112	団体貸出のPR	関係機関・団体に向けて団体貸出の制度をPRし、冊数や期間など各施設の状況に応じて団体貸出を行う。 [12、43、63をご参照ください。]	継続	○			動く図書館の巡回時や図書館見学時に、団体貸出を積極的に利用していただけるよう働きかけた。	読書振興課・図書館
113	資料の並べ方やサイン(本棚や館内の表示)の見直し	利用者が図書館職員に相談しやすいような雰囲気づくりに努める。資料を利用しやすいよう、サイン(本棚や館内の表示)や資料の並べ方を見直す。	継続	○			各図書館では「図書館へようこそ」ポスターの掲示を継続中。岡町図書館では、こどものともシリーズの並べ方を月別から書名の五十音順に見直し、目に入りやすい表示に変更した。	読書振興課・図書館
114	多言語の利用案内やサイン(本棚や館内の表示)の作成	子ども向けの利用案内やサイン(本棚や館内の表示)などを多言語表記にする。	継続	○			市立図書館では18年度に子ども読書活動推進連絡協議会ワーキンググループ会議で作成したアジア諸言語の簡易な目録リストをカウンターに置いている。(図書館) 国際交流センター内に多言語で図書情報を掲示した。(とよなか国際交流協会)	読書振興課・図書館 とよなか国際交流協会 市民団体(しょうないREK)
115	入院中の子どもの読書環境整備	市立豊中病院と市立図書館が連携し、患者用図書室などを充実させ、入院中の子どもの読書環境を整備する。	継続	○	病院への団体貸出の冊数	25冊	例年通り、小児病棟の担当者の希望を聞いて購入した資料を追加で長期貸出した。	○市立豊中病院 読書振興課・図書館

読書環境の整備

24年度より追加	音点訳資料の整備	図書館と障害福祉センターひまわり、音訳・点訳ボランティアが連携し音訳・点訳図書の製作を行う。	継続	○			図書館と障害福祉センターひまわり、音点訳ボランティアが年1回選定会議をし、子ども向けを含む音訳図書・点字図書の製作を行う。	○読書振興課・図書館 ひまわり
----------	----------	--	----	---	--	--	---	--------------------

子ども読書活動におけるネットワークづくりと情報交流の推進

◆〈実施計画の取組み〉(8ページ)をご参照ください。

子ども読書活動ボランティアや市民活動団体への支援の充実

NO.	事業名	取組みの内容	区分	状況	指標	平成24年度(2012年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
116	ボランティア活動への支援	録音図書、点字図書や拡大写本など、障害のある子どもに有効なメディアを研究し、製作に携わるボランティアを育成・支援する。	継続	○	講座の参加回数 /	2回 / 20人	音訳ボランティアのフォローアップ講座を実施し、制作にかかわるボランティアを支援した。	○読書振興課・図書館 ひまわり
117	おはなしボランティアへの支援	障害のある子どもや入院中の子ども、外国人の子どもに向けておはなし会を行うボランティアに対して市立図書館が図書資料や情報などを提供する。	継続	○			読み聞かせに使用する絵本や紙芝居などの資料を提供した。	読書振興課・図書館

子どもに関わる大人への啓発と研修

NO.	事業名	取組みの内容	区分	状況	指標	平成24年度(2012年度)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
118	市民向けの啓発事業の実施	市民に向けて、障害のある子どもに対して理解を求める取組みや啓発を行う。	継続	○	参加人数 / 数	1回 / 199人	子どもと本のつどいパート1では、「つながろう、えほん・こども・おとな」と題して児童発達支援センターの元保育士による講演会を実施し、合わせて世界のバリアフリー絵本展を開催した。	読書振興課・図書館 児童発達支援センター 支援学校
119	職員の研修	障害のある子どもや外国人の子どもを取り巻く状況など、多様な子どもの情報を共有できるように教職員の研修を行う。	継続	○	職員研修の参加人数		実施なし。(あゆみ、しいの実の両園間での、親子クラスについての保育の公開と勉強会の実施再開を検討中)	児童発達支援センター 読書振興課・図書館
120	情報交流と研修	図書館や各施設で行う研修の情報を共有し、研修の機会を広げる。 [72をご参照ください。157にも掲載しています]	継続	○			とよなかブックプラネットをはじめとする学校図書館関連の研修や小学校区ごとの校区連絡会全体で年に一度実施している研修会「地域子育て・子育て支援ネットワーク研修」に図書館職員も参加し職員間で情報を共有した。	読書振興課・図書館